

論文問題冊子

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は、2題で90分です。試験問題1～6のうち、2題を選択してください。
3. 経営システム科学分野の指導教員を第1希望とする場合は、問題3, 4(経営システム科学分野)の中から1題は選択してください。
4. 会計学分野の指導教員を第1希望とする場合は、問題5, 6(会計学分野)の中から1題は選択してください。
5. 試験問題についての質問は、受けつけません。
6. 試験開始後ただちに解答用紙の中の受験番号記入欄に受験番号と、問題番号記入欄に問題番号を誤記のないように記入してください(氏名は記入しないでください)。受験番号や問題番号が記入されていないと、その解答用紙の成績が0点になる場合があります。
7. 解答用紙1枚につき、1題解答してください。1枚の解答用紙に複数の問題を解答した場合、無効になる場合があります。また、解答用紙には裏面もありますが、1題につき、解答用紙1枚で収めるようにしてください。
8. 解答は、日本語で行ってください。
9. 問題冊子・解答用紙に汚損等がある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

2024年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営学 問題番号 1

組織と環境との関係についての下記の問いに、コンティンジェンシー理論の観点から答えなさい。

- (1) 組織における「分化 (differentiation)」と「統合 (integration)」とはどのようなことか説明しなさい。
- (2) 上記の「分化」と「統合」の内容や程度は、組織を取り巻く事業環境とどのような関係にあるか。そのような関係が生じる理由も含めて説明しなさい。

2024年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営学 問題番号 2

企業が多角化を行う動機と意義について、それぞれ複数の視点から説明しなさい。なお、ここでの多角化とは、企業が新たな領域（製品分野）へと事業を拡大していくことを指すものとする。

2024年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営システム

問題番号 3

以下の2問すべてについて解答せよ。

1. 確率変数 X が期待値 6、分散 9 の二項分布、確率変数 Y が期待値 4、分散 9 の二項分布に従うとする。また、 X と Y は独立であるとする。

- (1) $X + Y$ はどのような分布に従うか答えよ。導出過程についても記述すること。
(2) $E[3X] + \text{Var}(2X) + \text{Var}(4Y)$ の値を求めよ。計算過程についても記述すること。

2. 標本 $(x_1, y_1), (x_2, y_2), \dots, (x_n, y_n)$ に対して、以下の回帰モデルを考える。

$$y_i = \beta_0 + \beta_1 x_i + u_i, \quad i = 1, 2, \dots, n$$

ただし、 u_i は誤差項とする。また、以下の値が得られたとする。

$$n = 40, \quad \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 = 20, \quad \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})y_i = 80$$

ただし、 \bar{x} は x の標本平均とする。

このとき、以下の問いに答えよ。必要があれば以下の数値を用いよ。

自由度 38 の t 分布の上側 5% 点 = 1.686、自由度 38 の t 分布の上側 2.5% 点 = 2.024

自由度 39 の t 分布の上側 5% 点 = 1.685、自由度 39 の t 分布の上側 2.5% 点 = 2.023

自由度 40 の t 分布の上側 5% 点 = 1.684、自由度 40 の t 分布の上側 2.5% 点 = 2.021

- (1) 上記の回帰モデルを OLS 推定し、 β_1 の OLS 推定値 $\hat{\beta}_1$ を求めよ。計算過程についても記述すること。
(2) 上記の回帰モデルを OLS 推定し、 β_1 の OLS 推定値 $\hat{\beta}_1$ の標準誤差 $\text{SE}(\hat{\beta}_1)$ が 2.5 であったとする。このとき、有意水準 5% で β_1 の有意性の検定を行え。過程についても記述すること。
(3) x が 5 単位増えると y はどのように変化するといえるか、(2) の有意性の検定の結果を踏まえて説明せよ。

2024年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営システム

問題番号 4

以下の2つの間にある(i)-(ii)が付与された用語について簡単に説明したあと、実際のデータを用いた分析でどのように利用されるか述べてよ。

1. 回帰分析における(i)多重共線性と(ii)標本相関係数
2. 多重検定における(i)第1種の誤りと(ii)ボンフェロニの方法

2024年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 会計学 問題番号 5

費用（原価）配分の原則について、以下の問いに答えなさい。

- (1) 費用配分の原則の意義を説明しなさい。
- (2) 費用配分の原則の前提となっている会計公準の名称と意義を説明しなさい。
- (3) 費用配分の原則の具体的な適用方法を、有形固定資産と棚卸資産を例に説明しなさい。

2024年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 会計学 問題番号 6

- (1)個別原価計算における製造間接費の製品への実際配賦の手続きについて述べ、その欠陥を説明しなさい。
- (2)上記の実際配賦に代わり正常配賦を行う場合、その意義と課題について説明しなさい。